

私たちの町の文化財

私たちの町の文化財

池のほとりの不思議

■第11話 池辺寺にまつわるもの

整備された池辺寺跡では百基の塔と本堂建物の礎石群が一番目を引くと思います。重要な遺構ですし大きいので目立ちますが、実はそれら以外にも、整備された場所には重要なものが見つっています。石を帯状に積んだ石塁と呼ばれるものがあります。その石塁は百塔をぐるりと囲み、百基の塔が整然と配置された様相を強調しています。そしてその石塁は、百塔から離れた南側の尾根に真っ直ぐ延びていきます。直線や直角など規格を持って造られていますので、明確な目的があったことは確かですが、何のためかは分かりません。また百塔以外にも数カ所に石積みが確認されています。本堂建物の南側には百塔域に入るための階段と3基の石積みがあります。それらの石積みは百塔のものとは構造が異なるため、異なる目的で造られた

と考えられます。

百塔と本堂のある場所から道路を挟んで東側の平坦地には、鍛冶工房や池が、さらに下には出入り口とされる掘り込みがあります。その周辺には、お墓と考えられるものが見られます。

「池辺寺」といえば「百塔」、「本堂建物跡」、「龍」とイメージが定着するのは嬉しいことです。ですが、それらを取り巻く施設や環境を含めて全体を見ることで、実像にせまった古代の池辺寺に思いを馳せることができるのだと思います。

◆池辺寺周辺の復元

